

第3回 海上合同 WG 議事要旨

1. 日 時 : 平成24年9月27日(木) 14:00-16:00

2. 場 所 : ソリッドスクエア西館 1階第2会議室

3. 議事の概要

(1) 議題

①第2回 WG 提案内容についての結果報告

○ 事務局（センター）から、資料1に基づき説明の後、意見交換を行った。

② システム制限値（入力欄・保存期間）の確認

○ 事務局（センター）から、次の事項について資料2に基づき説明の後、意見交換を行った。

- ・ システム制限値の見直し（処理件数及びDB保存期間）
- ・ 輸出入申告業務の欄数拡大及びイメージについて

③廃止業務一覧等の提示

○ 事務局（センター）から、次の事項について資料3に基づき説明の後、意見交換を行った。

- ・ 廃止業務一覧等の提示
- ・ 廃止対象業務の抽出方針
- ・ 廃止対象業務及び統廃合対象業務の一覧（オンライン・管理資料）
- ・ 業務名等の変更

④ 海上システムにおける航空貨物の取扱いについて

○ 事務局（センター）から、次の事項について資料4に基づき説明の後、意見交換を行った。

- ・ 輸出入貨物における問題点等の整理
- ・ 海上システムで輸出航空貨物を扱うデメリット
- ・ 次期の方針及びイレギュラーケースへの対応

⑤ 決済機能の機能拡充

○ 事務局（センター）から、次の事項について資料5に基づき説明の後、意見交換を行った。

- ・ 決済機能の拡充検討及び請求情報の通知から電子決済完了までの流れ

⑥ 海外との情報の交換

○ 事務局（センター）から、次の事項について資料6に基づき説明の後、意見交換を行った。

- ・ 海外との情報の交換の現状（SITA・eCert・eC/O・出港前報告制度）

(2) 意見交換の概要

- システム制限値（入力欄・保存期間）の確認
 - 多欄数業務を提供とあるが、業務を分けることで自社システムに影響がでると
思われる。（委員）
⇒今般の提案は、50欄超に対応するための申告業務を新たに提供したいとする
ものであり、1つの例を示したものである。具体的な実現方法については、
詳細仕様の検討で行いたいと考えている。（事務局）

- 廃止業務一覧等の提示
 - 利用者IDについて、8桁での運用を次期において継続して行うことはやはり
難しいのか。
（委員）
⇒利用者が増加しているという実態もあり、現状の体系を維持することは厳し
いと考えている。自社システムの影響も十分承知していることから、早い段
階でご提案させていただいたものであり、5年後の更改を見据えてシステム
改修等の必要な対応をお願いしたい。（事務局）

 - リアルタイム残高照会について、他社の残高を照会するわけではなく、自社の
口座残高だけでも照会を行いたい。管理部署が離れていることから残高を確認
しながら通関を行いたい。（委員）
⇒ご要望はNACCSの端末を銀行のATM端末のようにして照会したいという
趣旨と理解するが、当該対応は現実的に困難と考える。（事務局）

 - ACL業務の統合後の業務名に関して、ACLO2（在来船対応業務）につい
てはD/Rという表現を使うのは適当ではないのではないか。（委員）
⇒ご指摘のとおりであり、再度改めて検討していきたい。また、望ましい業務
名があれば、ご意見をお寄せいただきたい。（事務局）

- 海上システムにおける航空貨物の取扱いについて
 - 海上貨物と航空貨物の両方を扱う際は、パッケージソフトを使い分けるという
ことになるのか。また、イレギュラーケース1の場合、許可後訂正をCHGの
前にやるのか、後にやるのか。（委員）
⇒現行においても、パッケージソフトについては海空共用版あり、物理的に2
枚のパッケージソフトが必要になることはない。なお、現状では、航空／海
上両方の業務を行う場合は、利用申込において海／空共用として手続きを行
っていただく必要がある。イレギュラーケース1の件については、許可後訂
正と同業務とは直接関係しないと考えているが、この点も含め今後詳細仕様
において検討していきたい。（事務局）

- 荷主としては輸送モードの違い（航空・海上の違い）は意識していない。今後、航空と海上は別システムとして進んでいくのか、統合をするのかお聞かせ願いたい。また、仮に現実解として別機能として存続していくのであれば、なるべく我々にとってモードの違いを意識しない、或いは、航空・海上間がシームレスに連携するというような形でシステム開発をお願いしたい。（委員）

⇒航空と海上では貨物の取扱いが、根本的に違っており、利用者様の利便性を考慮すると現実的には統合は難しいと考えている。また、シームレス化については、特に荷主の皆様から見れば航空・海上も手続的には同一という面があるわけですが、どのような形で実現することが望ましいのか、具体的にご意見いただきながら、引き続き勉強をさせていただきたい。（事務局）

- 保税の話であるが、搬入時に海上貨物か航空貨物かわからなかった場合の対応はどうするのか。

（委員）

⇒海上か航空かはっきりとしていない場合は、例えば、入力のタイミングを調整していただくといったような形で、運用面で対処いただかざるを得ない場合もあると考えている。（事務局）

○ 決済機能の機能拡充

- 各船社からすると、月2回しか振込が行われれないという点が大きなネックとなっているので、改善していただきたい。（委員）

⇒現行システムにおける改善は困難であるが、第6次 NACCS 更改のタイミングにおいて、何らかの改善が図れるか検討していきたい。（事務局）

- デマレージの支払いについて、請求先の欄についてはCYターミナルが入力することなのか。

（委員）

⇒CYターミナルによるデマレージの請求については、請求先が確定した以降にNACCSを利用して請求業務を行っていただくこととなる。（事務局）

- 請求先をCYオペレーターが決めるというのは、非常に難しい面がある。例えば、輸入の場合にConsigneeが払うとは限らないし、また、最初に決まっても後から別の例えばトラックに請求するような場合がある。（委員）

⇒基本的には請求者確定以降にご利用いただくことを前提としているが、支払者の変更があった場合は一旦当初の請求業務の取り消しを行い、再度、請求業務を行うといったこともできる。（事務局）

- 名古屋の場合 CY でデマレージの徴収はしていない。また、資料において請求者を CY と記載されると誤解される場合があるので、表現の問題ではあるが船会社としてはどうか。

⇒添付はCY等による入力例としているものであり、CYのみが行う業務ということではないのでご理解をいただきたい。また、デマレージ等の徴収方法は各地域・各港で異なっていることも承知しているが、標準的な決済方法としてのNACCS利用を検討頂ければと考えている。(事務局)

- 海外との情報の交換
意見なし

- その他

- 以前から要望している「ACL 通知先の拡充」「NVC01の1件で登録できるB/L 件数を増やす」の2つについては、システム制限値の項目と考えているが資料に記載されていない。(委員)

⇒ご要望2点については、基本仕様ではなく詳細仕様において検討する。

(3) 今後のスケジュール

- 第4回の海上合同 WG の開催日は 10 月 19 日(金) 14:00~16:00 とする。

(参考) 第3回海上合同 WG の委員は別紙のとおり

以上